

2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会幹事会
デジタルサイネージワーキンググループ（第3回）発表資料

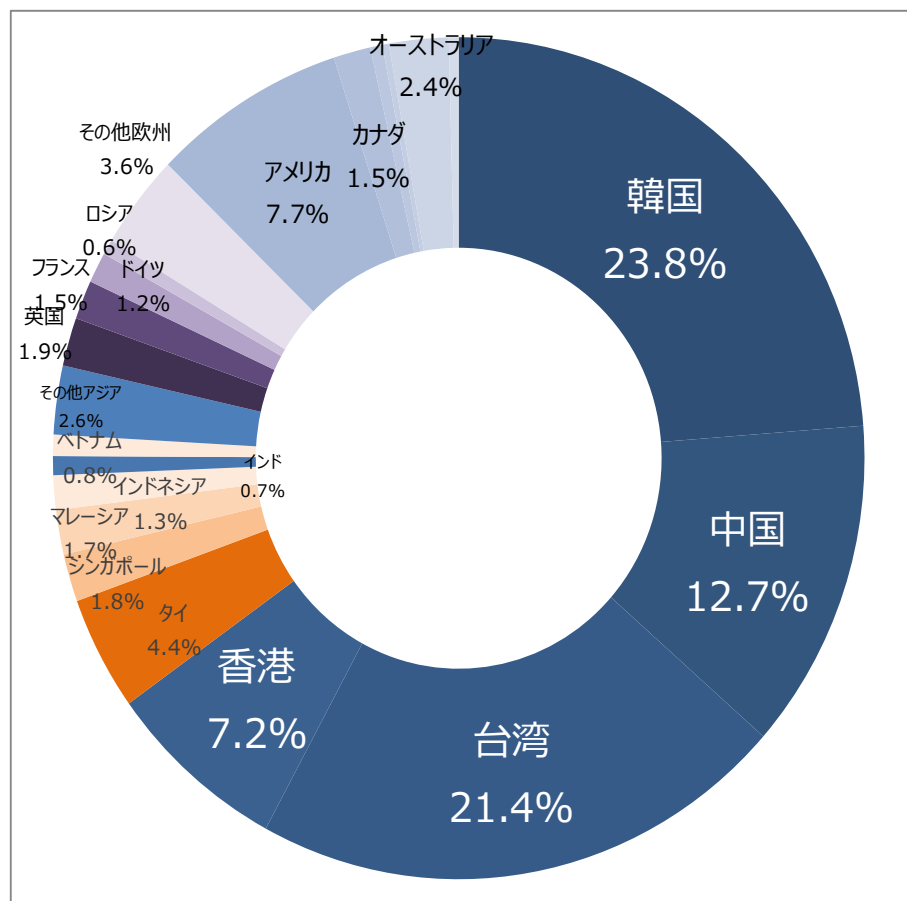
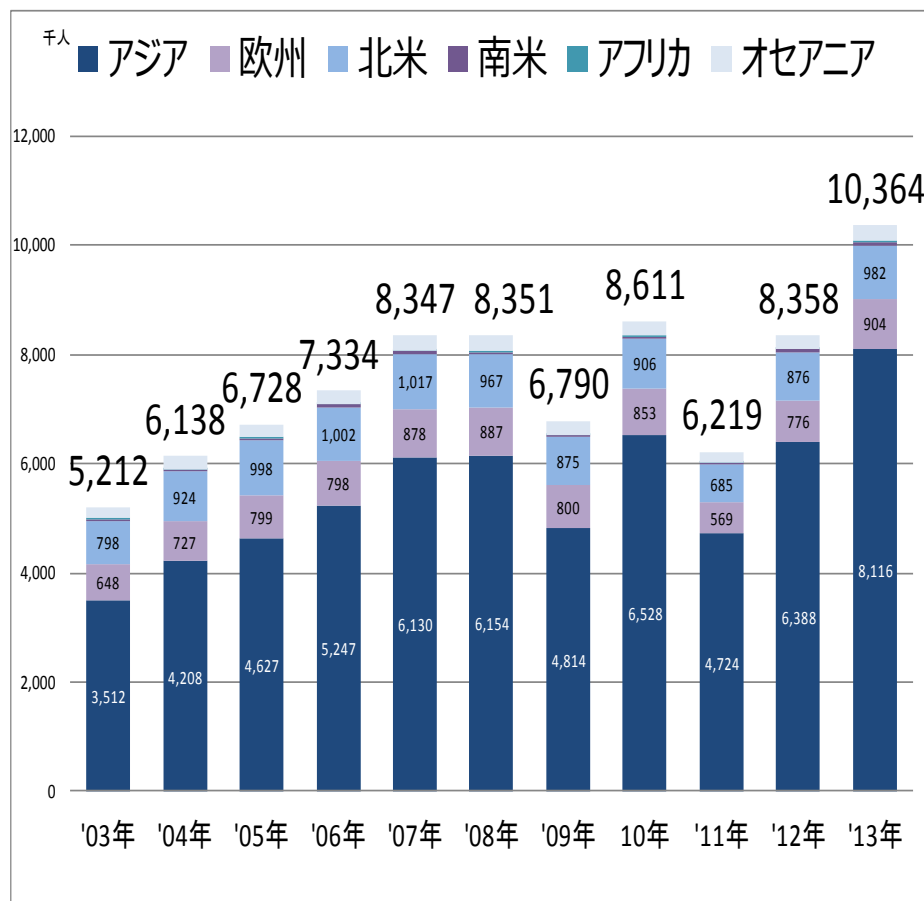
訪日インバウンド2000万人時代・観光立国実現を見据えた デジタルサイネージへの期待と課題

株式会社 J T B総合研究所
事業開発部 主席研究員
岡田邦喜

1. 訪日外国人観光客の概要
2. 観光分野における日本の国際競争力
3. 観光立国実現に向けたデジタルサイネージへの期待と課題

1. 訪日外国人観光客の概要

2013年（年計）に、訪日外国人旅行者数は1,000万人を突破した。2008年9月のリーマンショックと急激な円高の進行、新型インフルエンザの世界的流行などにより訪日旅行者数は減少したが、2011年には東日本大震災によりさらに減少。2012年以降訪日外国人旅行者は増加傾向にあり、特にアジアからの訪日外国人客数の増加が顕著である。訪日外国人旅行者数の国・地域別シェアは、韓国・中国・台湾の東アジア諸国・地域シェアが半分以上を占めるが、2013年にはASEAN6ヶ国からの訪日旅行者数が合計で115万人に迫り、香港に40万人の差をつけて第四極に浮上している。



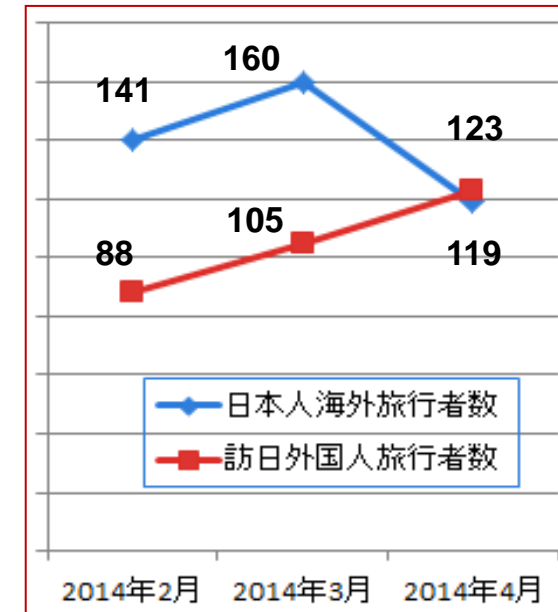
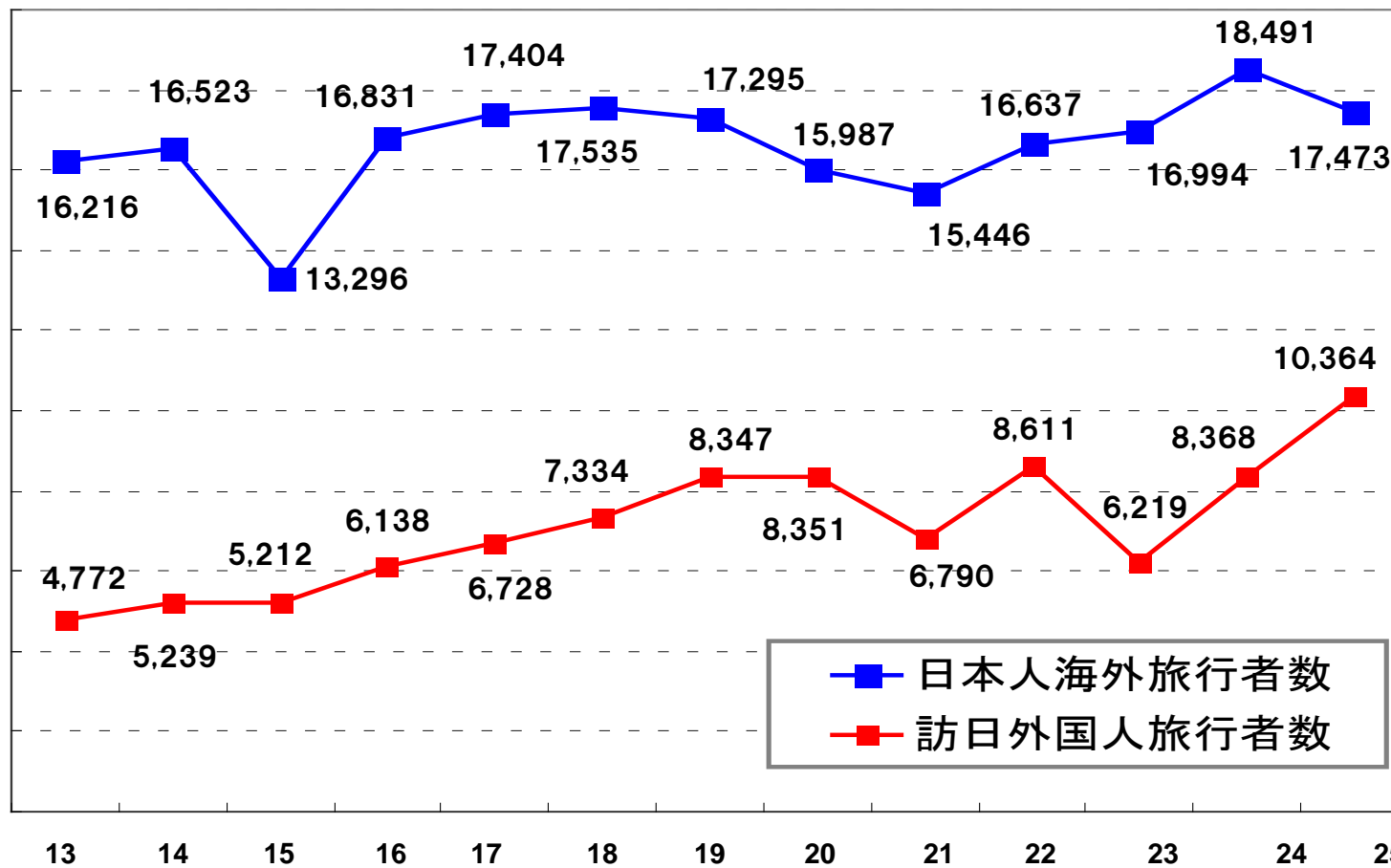
出所：「訪日外客数統計」日本政府観光局(JNTO)をもとにJTB総合研究所作成

2014年 訪日外国人旅行者1340万人(2013年比 10.36%増)

2011年3月の東日本大震災より大幅に減少した訪日外国人旅行者数であるが、円安や東南アジアなどのビザ緩和の影響もあり、2013年に、ビジットジャパン事業開始以来の政府目標であった年間1000万人を初めて達成(日本人による海外旅行者数1000万人は1990年に達成)

万人

万人



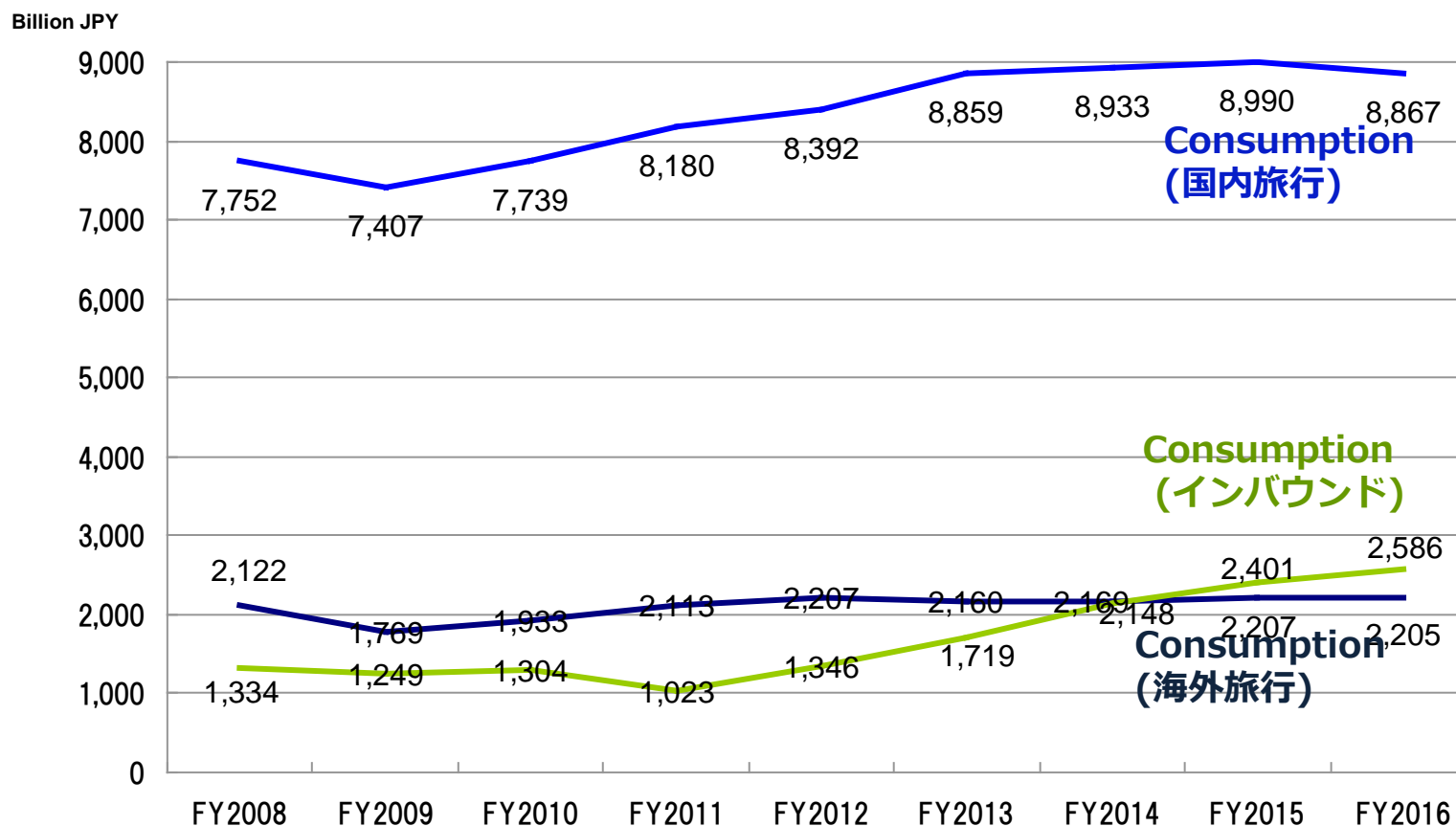
2014年4月、44年ぶりに訪日外国人数が出国日本人数を上回った。

出典: 日本政府観光局(JNTO)

国内旅行：2015年に2008年以来で9兆円をうかがう規模まで成長するがその後ゆるやかに減少が見込まれる。

訪日外国人（インバウンド）：急速に拡大を続け2015年には日本人による海外旅行消費額を追い抜くと見られる。

海外旅行：少子高齢化の影響もあり海外旅行市場は横ばいの見込み。



2010-2016 CAGR

Consumption (国内旅行)



2.0%

Consumption (インバウンド)



10.3%

Consumption (海外旅行)



1.9%

Japan Tourism Marketing Co.: Survey in Oct 2014

Note) excluding local expenses (eating and drinking, shopping, etc.). Japan inbound excludes transportation expenses to Japan, and package tour expense, Since consumption in domestic and overseas revised the calculation method in 2010, the prospect as of 08 year is indicated on the basis of the ratio in the previous year.

出所：JTB総合研究所2014年12月作成

- 定住人口1人当たりの年間消費額（114万円）は旅行者消費に換算すると
 - ≒外国人旅行者8人分
 - ≒国内旅行者（宿泊）26人分
 - ≒国内旅行者（日帰り）81人分

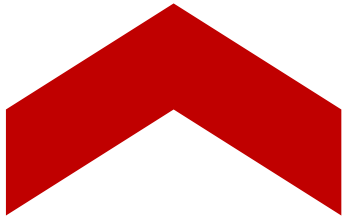
定住人口
1人減少分

訪日外国人旅行
8人が来訪

定住人口 = 1億2,700万人
1人当たり年間消費額 = 114万円

1.4兆円
1,036万人
1人1回当たり消費額
14万円×8人

114万円

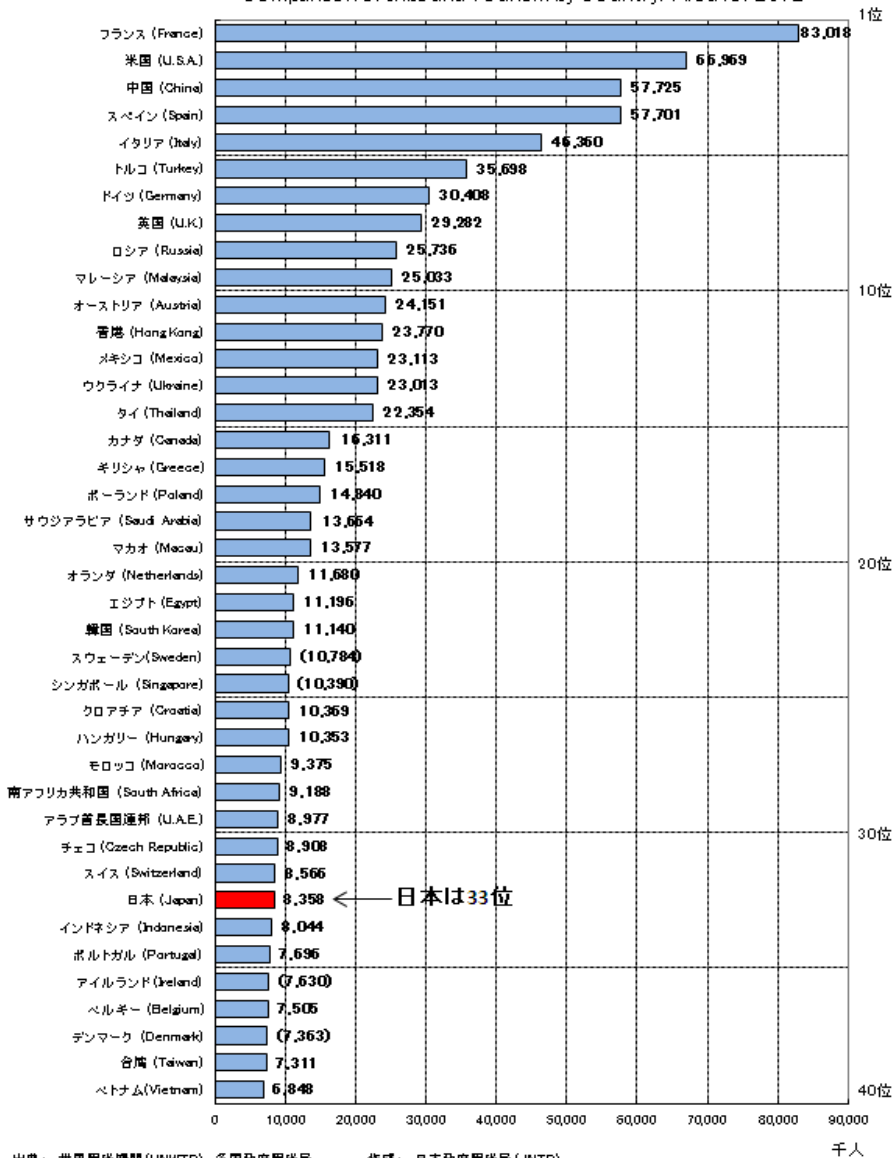


112万円

定住人口は平成22年国勢調査（総務省）、定住人口1人当たり年間消費額は平成26年家計調査（総務省）による。旅行消費額の訪日外国人旅行は訪日外国人消費動向調査（2013年）より算出、国内旅行は旅行・観光消費動向調査（2013年各四半期報）より算出。訪日外国人旅行者はJNTO（2013年）発表数値、国内旅行者は旅行・観光消費動向調査（2013年各四半期報）より算出。訪日外国人旅行者1人1回当たり消費額は訪日外国人消費動向調査（2013年）、国内旅行者（宿泊/日帰り）1人1回当たり消費額は旅行・観光消費動向調査（2013年各四半期報）より算出。定住人口1人減少分に相当する旅行者人数は、定住人口1人当たり年間消費額を訪日外国人旅行者又は国内旅行者1人1回当たり消費額で除したものの。

2. 観光分野における日本の国際競争力

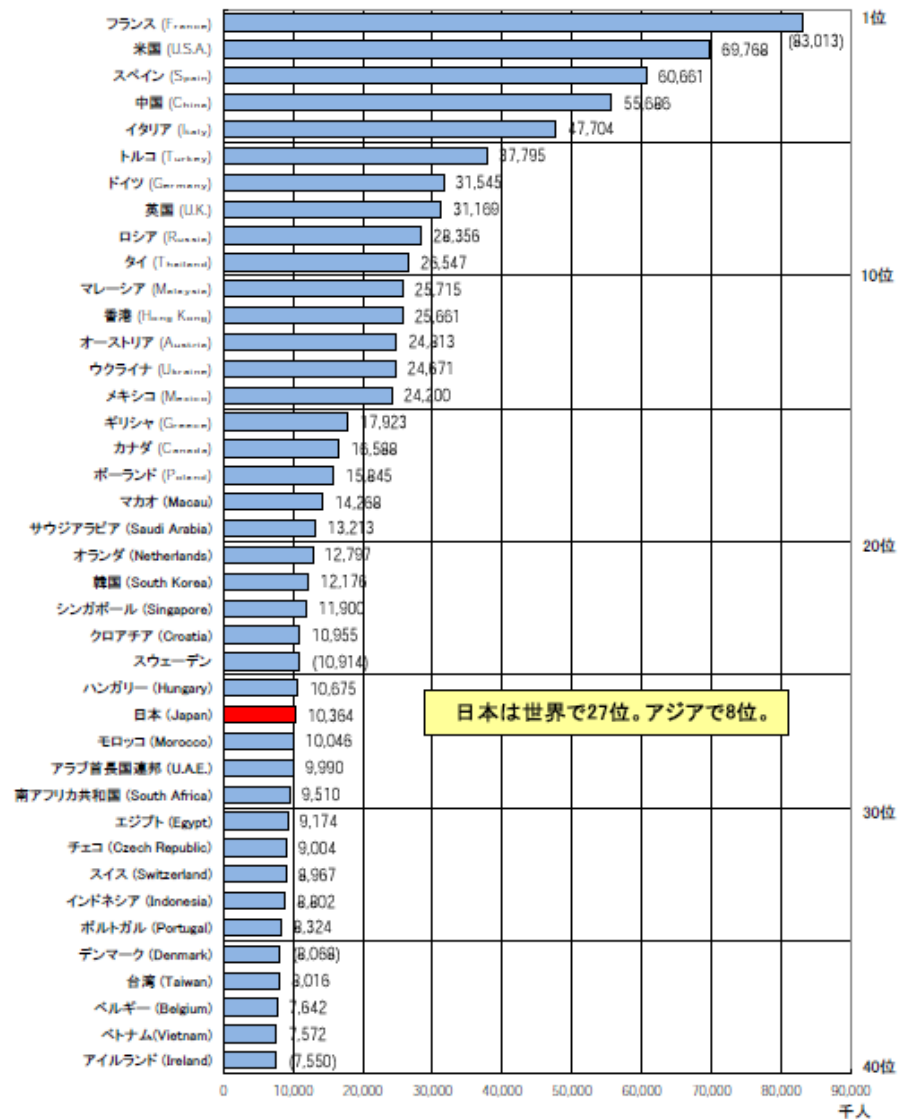
世界各国・地域への外国人訪問者数(2012年 上位40位)
Comparison of Inbound Tourism by Country/Area for 2012



出典: 世界観光機関 (UNWTO)、各国政府観光局 作成: 日本政府観光局 (JNTO)
 注1: 本表の数値は2013年6月時点の暫定値である。
 注2: スウェーデン、シンガポール、アイルランド、デンマークは、2012年の数値が不明であるため、2011年の数値を採用した。
 注3: アラブ首長国連邦は、連邦を構成するドバイ首長国のみの数値が判明しているため、その数値を採用した。
 注4: 本表で採用した数値は、韓国、日本、ベトナムを除き、原則的に1泊以上した外国人訪問者数である。
 注5: 外国人訪問者数は、数値が違って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る。
 注6: 同一国において、外国人訪問者数が異なる統計基準に基づいて算出されている場合があるため、比較する際には注意を要する。

Source: UNWTO and National Tourism Offices Compilation: Japan National Tourism Organization (JNTO)

世界各国・地域への外国人訪問者数(2013年 上位40位)
Comparison of Inbound Tourism by Country/Area for 2013



出典: 世界観光機関 (UNWTO)、各国政府観光局 作成: 日本政府観光局 (JNTO)
 注1: 本表の数値は2014年6月時点の暫定値である。
 注2: フランス、スウェーデン、デンマーク、アイルランドは、2013年の数値が不明であるため、2012年の数値を採用した。
 注3: アラブ首長国連邦は、連邦を構成するドバイ首長国のみの数値が判明しているため、その数値を採用した。
 注4: 本表で採用した数値は、韓国、日本、台湾、ベトナムを除き、原則的に1泊以上した外国人訪問者数である。
 注5: 外国人訪問者数は、数値が違って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る。
 注6: 外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合があるため、これを比較する際には注意を要する。

Source: UNWTO and National Tourism Offices Compilation: Japan National Tourism Organization (JNTO)

World Economic Forum (WEF ダボス会議) 観光分野における国際競争力総合ランキング



2013年 総合ランキング
日本 14位
(2011年22位から躍進)

Country/Economy	2013		2011
	Rank/140	Score	Rank/139
Switzerland	1	5.66	1
Germany	2	5.39	2
Austria	3	5.39	4
Spain	4	5.38	8
United Kingdom	5	5.38	7
United States	6	5.32	6
France	7	5.31	3
Canada	8	5.28	9
Sweden	9	5.24	5
Singapore	10	5.23	10
Australia	11	5.17	13
New Zealand	12	5.17	19
Netherlands	13	5.14	14
Japan	14	5.13	22
Hong Kong SAR	15	5.11	12
Iceland	16	5.10	11
Finland	17	5.10	17
Belgium	18	5.04	23
Ireland	19	5.01	21
Portugal	20	5.01	18
Denmark	21	4.98	16
Norway	22	4.95	20
Luxembourg	23	4.93	15
Malta	24	4.92	26
Korea, Rep.	25	4.91	32
Italy	26	4.90	27
Barbados	27	4.88	28
United Arab Emirates	28	4.86	30
Cyprus	29	4.84	24
Estonia	30	4.82	25
Czech Republic	31	4.78	31
Greece	32	4.75	29
Taiwan, China	33	4.71	37
Malaysia	34	4.70	35
Croatia	35	4.59	34
Slovenia	36	4.58	33
Panama	37	4.54	56
Seychelles	38	4.51	n/a
Hungary	39	4.51	38
Montenegro	40	4.50	36

World Economic Forum (WEF ダボス会議) 観光分野における国際競争力・アジア太平洋地域ランキング2013

Country/Economy	OVERALL INDEX			SUBINDEXES					
	Regional rank	Overall rank	Score	T&T regulatory framework		Business environment and infrastructure		T&T human, cultural, and natural resources	
				Rank	Score	Rank	Score	Rank	Score
Singapore	1	10	5.23	6	5.74	4	5.31	25	4.64
Australia	2	11	5.17	23	5.32	25	4.81	4	5.39
New Zealand	3	12	5.17	4	5.75	12	5.06	22	4.69
Japan	4	14	5.13	24	5.31	24	4.86	10	5.22
Hong Kong SAR	5	15	5.11	19	5.43	3	5.32	29	4.59
Korea, Rep.	6	25	4.91	38	5.02	17	4.98	20	4.74
Taiwan, China	7	33	4.71	29	5.19	34	4.63	44	4.29
Malaysia	8	34	4.70						
Thailand	9	43	4.47						
China	10	45	4.45						
India	11	65	4.11	1					
Indonesia	12	70	4.03						
Brunei Darussalam	13	72	4.01						
Sri Lanka	14	74	3.99						
Azerbaijan	15	78	3.97						
Vietnam	16	80	3.95						
Philippines	17	82	3.93						
Kazakhstan	18	88	3.82	62	4.66	79	3.48	119	3.30
Mongolia	19	99	3.63	91	4.25	107	2.96	90	3.69
Cambodia	20	106	3.56	105	4.06	112	2.86	78	3.77
Kyrgyz Republic	21	111	3.45	93	4.23	131	2.61	103	3.51
Nepal	22	112	3.42	100	4.14	128	2.64	105	3.48
Tajikistan	23	114	3.41	90	4.28	123	2.69	122	3.26
Pakistan	24	122	3.25	131	3.38	104	2.99	116	3.38
Bangladesh	25	123	3.24	124	3.56	109	2.91	124	3.24

【日本に対する評価コメント】

- ・18の世界遺産を含む豊富な文化資源（11位）
- ・国が主催する国際見本市と展示会と創造性の高い産業
- ・鉄道をはじめとする世界に誇る地上交通インフラ（7位）
- ・同地区でリードを続ける教育・トレーニング（13位）
- ・さらに発展を続けるICTインフラ（7位）
- ・日本の顧客第1（おもてなし）文化（1位）
- ・ネガティブ要因としては、高水準な物価（130位）

World Economic Forum (WEF ダボス会議)

観光分野における国際競争力ランキングの算定基準と日本の順位

Travel & Tourism Competitiveness Index (TTCI) は、A) 旅行・観光に対する規制の枠組み、(B)旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度、C)旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度の三つの分野に分かれ下記の14項目のSub Index について評価対象としている。項目ごとに7点満点とする 各国毎の点数をつけ、それらを総合した指数が各国のランクとなっている。

	日本の順位 (評価点)	1～3位の国
A. T&T regulatory framework		
旅行・観光に対する規制の枠組み	24位 (5.31)	
(1) Policy rules and regulations (政策・規則)	36位 (4.89)	シンガポール、ニュージーランド、香港
(2) Environmental sustainability (環境持続性)	47位 (4.82)	スウェーデン、スイス、フィンランド
(3) Safety & security (安全)	20位 (5.73)	フィンランド、スイス、香港
(4) Health & hygiene (衛生)	16位 (6.30)	オーストリア、ドイツ、カザフスタン
(5) Prioritization of travel & tourism (観光産業に対する優先度)	42位 (4.80)	セイシェルズ、キプロス、モーリシャス
B. T&T business environment and infrastructure		
旅行・観光ビジネスの環境とインフラ整備度	24位 (4.86)	
(6) Air transport infrastructure (空路インフラ)	25位 (4.53)	カナダ、アメリカ、UAE
(7) Ground transport infrastructure (陸路インフラ)	7位 (6.20)	香港、シンガポール、スイス
(8) Tourism infrastructure (観光インフラ)	53位 (4.56)	オーストリア、イタリア、ギリシャ
(9) ICT infrastructure (情報インフラ)	7位 (5.50)	韓国、香港、スウェーデン
(10) Price competitiveness in T&T industry (価格競争力)	130位 (3.52)	イラン、ブルネイ、ガンビア
C. T&T human, cultural, and natural resources		
旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度	10位 (5.2)	
(11) Human capital (人的資源)	21位 (5.42)	スイス、シンガポール、アイスランド
(12) Affinity for travel & tourism (観光受容度)	77位 (4.55)	レバノン、バルバドス、香港
(13) National resources (自然資源)	21位 (4.99)	ブラジル、オーストラリア、アメリカ
(14) Cultural resources (文化資源)	11位 (5.90)	スペイン、スウェーデン、イギリス

World Economic Forum (WEF ダボス会議) 観光分野における国際競争力ランキングの算定基準 (詳細項目)

SUBINDEX A: T&T REGULATORY FRAMEWORK (旅行・観光に対する規制の枠組み)

Pillar 1: Policy rules and regulations (政策・規則)

- 1.01 Prevalence of foreign ownership (外国資本の保有率)
- 1.02 Property rights (財産権)
- 1.03 Business impact of rules on FDI (FIDに関する規則のビジネスの影響力)
- 1.04 Visa requirements* (ビザ発給要件)
- 1.05 Openness of bilateral Air Service Agreements* (二国間航空サービス協定の開放性)
- 1.06 Transparency of government policymaking (政府の政策決定の透明性)
- 1.07 Time required to start a business* (起業するのに要する時間)
- 1.08 Cost to start a business* (起業するのに要するコスト)
- 1.09 GATS commitments restrictiveness index of T&T services* (旅行・観光のGATS合意の拘束性指標)

Pillar 2: Environmental sustainability (環境持続性)

- 2.01 Stringency of environmental regulation (環境規制の厳しさ)
- 2.02 Enforcement of environmental regulation (環境規制の執行状況)
- 2.03 Sustainability of T&T industry development (旅行・観光産業発展における持続可能性)
- 2.04 Carbon dioxide emissions* (二酸化炭素排出量)
- 2.05 Particulate matter concentration* (粒子状物質の濃度)
- 2.06 Threatened species* (絶滅危惧種)
- 2.07 Environmental treaty ratification* (環境条約の批准)

Pillar 3: Safety and security (安心・安全)

- 3.01 Business costs of terrorism (テロに対する対策費)
- 3.02 Reliability of police services (警察による警備の信頼性)
- 3.03 Business costs of crime and violence (犯罪に対する対策費)
- 3.04 Road traffic accidents* (交通事故率)

Pillar 4: Health and hygiene (健康と公衆衛生)

- 4.01 Physician density* (人口に対する医師の割合)
- 4.02 Access to improved sanitation* (改善された衛生施設への普及率)
- 4.03 Access to improved drinking water* (飲料水の普及率)
- 4.04 Hospital beds* (病床数)

Pillar 5: Prioritization of Travel & Tourism (旅行・観光の優先的位置づけ)

- 5.01 Government prioritization of the T&T industry (旅行・観光産業に対する政府の優先的位置づけ)
- 5.02 T&T government expenditure* (旅行・観光産業への政府投資額)
- 5.03 Effectiveness of marketing and branding to attract tourists (観光客を惹きつけるマーケティングとブランディングの効率性)
- 5.04 Comprehensiveness of annual T&T data*2 (旅行・観光産業年次データの包括性)
- 5.05 Timeliness of providing monthly/quarterly T&T data*2 (旅行・観光産業月次／四半期データの適時性)

World Economic Forum (WEF ダボス会議) 観光分野における国際競争力ランキングの算定基準 (詳細項目)

SUBINDEX B: T&T BUSINESS ENVIRONMENT AND INFRASTRUCTURE (旅行・観光産業の環境とインフラ整備)

Pillar 6: Air transport infrastructure (航路のインフラ整備)

- 6.01 Quality of air transport infrastructure (航空のインフラ整備)
- 6.02 Available seat kilometers, domestic*3 (国内線の有効座席キロ数)
- 6.03 Available seat kilometers, international*3 (国際線の有効座席キロ数)
- 6.04 Departures per 1,000 population* (人口1,000人あたりの出国者数)
- 6.05 Airport density* (空港密度)
- 6.06 Number of operating airlines* (航空会社数)
- 6.07 International air transport network* (国際線就航数)

Pillar 7: Ground transport infrastructure (陸路のインフラ整備)

- 7.01 Quality of roads (道路の整備状況)
- 7.02 Quality of railroad infrastructure (鉄道インフラの整備状況)
- 7.03 Quality of port infrastructure (港湾インフラの整備状況)
- 7.04 Quality of domestic transport network (国内輸送のネットワーク)
- 7.05 Road density* (道路密度)

Pillar 8: Tourism infrastructure (旅行のインフラ整備)

- 8.01 Hotel rooms* (ホテル客室数)
- 8.02 Presence of major car rental companies* (レンタカー会社の数)
- 8.03 ATMs accepting Visa cards* (ビザカード利用可能なATMの数)

Pillar 9: ICT infrastructure (ICTのインフラ整備)

- 9.01 ICT use for business-to-business transactions² (企業間取引のためのICT利用率)
- 9.02 ICT use for business-to-consumers transactions² (企業と顧客間取引のためのICT利用率)
- 9.03 Individuals using the Internet* (インターネット個人普及率)
- 9.04 Telephone lines* (電話回線普及率)
- 9.05 Broadband Internet subscribers* (ブロードバンドインターネット加入者数)
- 9.06 Mobile telephone subscriptions* (携帯電話加入者数)
- 9.07 Mobile broadband subscriptions* (モバイルブロードバンド加入者数)

Pillar 10: Price competitiveness in the T&T industry (旅行・観光産業の価格競争率)

- 10.01 Ticket taxes and airport charges* (空港利用税とチケット税)
- 10.02 Purchasing power parity* (購買力平価)
- 10.03 Extent and effect of taxation (課税範囲とその効率)
- 10.04 Fuel price levels* (燃料価格水準)
- 10.05 Hotel price index* (ホテル料金水準)

World Economic Forum (WEF ダボス会議) 観光分野における国際競争力ランキングの算定基準 (詳細項目)

SUBINDEX C: T&T HUMAN, CULTURAL, AND NATURAL RESOURCES (旅行・観光に関する人材、文化及び自然資産の充実度)

Pillar 11: Human resources Education and training (人財育成・教育)

- 11.01 Primary education enrollment* (初等教育就学率)
- 11.02 Secondary education enrollment* (中等教育就学率)
- 11.03 Quality of the educational system (教育制度のクオリティ)
- 11.04 Local availability of specialized research and training services (専門調査と教育制度の充実度合)
- 11.05 Extent of staff training Availability of qualified labor (職業訓練の機会の充実性)
- 11.06 Hiring and firing practices (雇用者及び解雇者実数)
- 11.07 Ease of hiring foreign labor (外国人労働者の雇用の容易さ)
- 11.08 HIV prevalence*4 (HIV感染者数)
- 11.09 Business impact of HIV/AIDS4 (HIV感染者による影響力)
- 11.10 Life expectancy* (平均余命)

Pillar 12: Affinity for Travel & Tourism (旅行と観光の吸引力)

- 12.01 Tourism openness* (観光開放性)
- 12.02 Attitude of population toward foreign visitors (外国人旅行者に対する接し方)
- 12.03 Extension of business trips recommended (出張先としての推薦度合)
- 12.04 Degree of customer orientation (顧客志向の度合)

Pillar 13: Natural resources (自然資源)

- 13.01 Number of World Heritage natural sites* (世界自然遺産数)
- 13.02 Quality of the natural environment (自然環境の状況)
- 13.03 Total known species* (固有種の数)
- 13.04 Terrestrial biome protection*2 (地上生物の保護)
- 13.05 Marine protected areas*2 (海洋保護区)

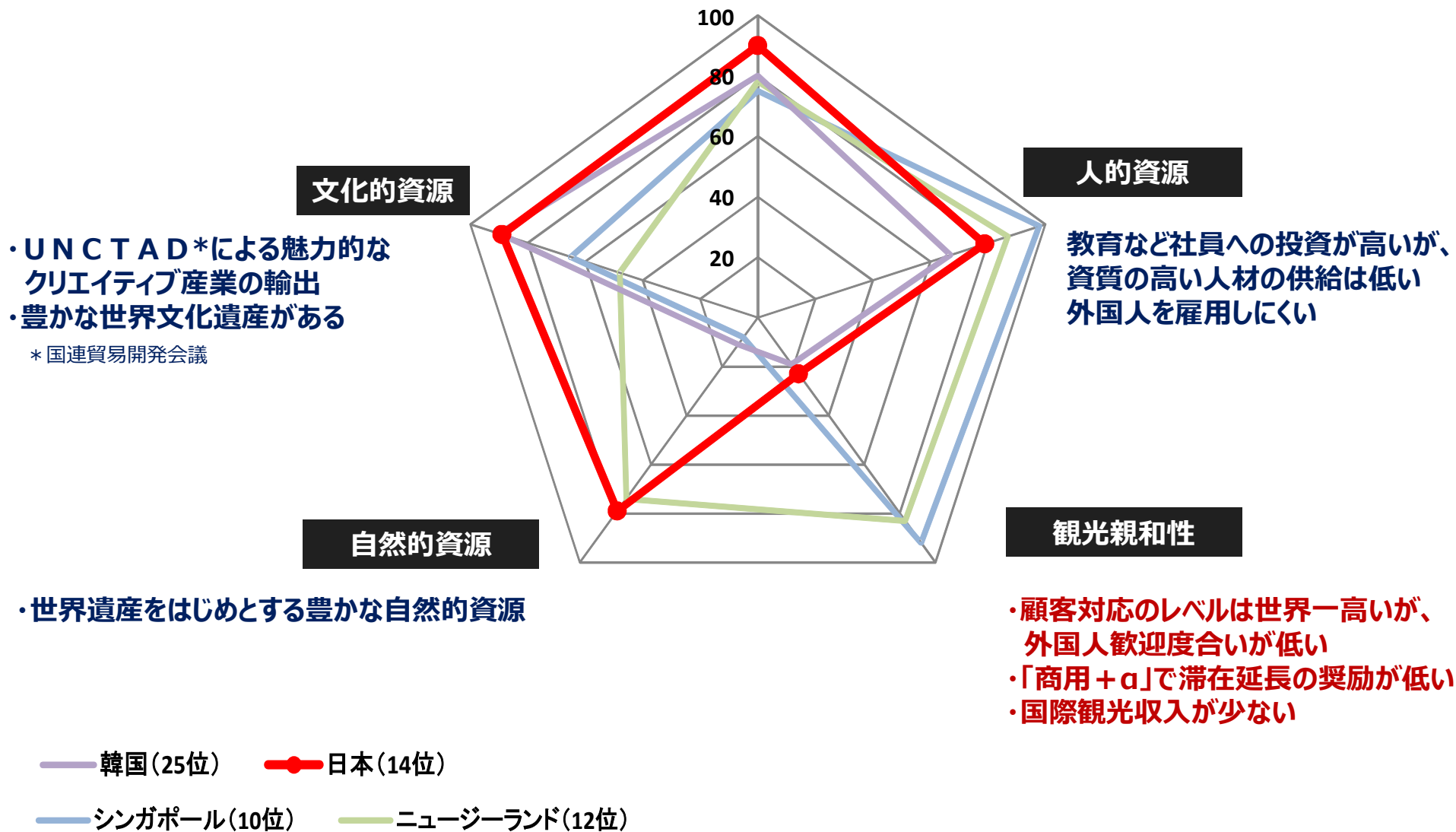
Pillar 14: Cultural resources (文化資源)

- 14.01 Number of World Heritage cultural sites* (世界文化遺産数)
- 14.02 Sports stadiums* (スポーツスタジアムの数)
- 14.03 Number of international fairs and exhibitions* (国際見本市・博覧会の数)
- 14.04 Creative industries exports* (クリエイティブ産業の輸出)

アジア太平洋競合 4 か国ランキング比較と日本の特徴

C : 人的・文化的・自然的資源分野の項目別比較

C : 旅行・観光の人的・文化的・自然的資源分野 (総合)



訪日インバウンド拡大に向けた主な課題

- **訪日促進重点国への重点市場への査証（VISA）緩和**
 - ・個人観光マルチビザの導入など（中国人観光客に向けて沖縄、東北で実施中）
- **訪日旅行のランドオペレーター事業者に対する法制度の整備**
 - ・訪日旅行のランドオペレーター事業者の実態の把握
 - ・悪質なランドオペレーター事業者に対する、外国人旅行者保護に向けた規制強化
- **オープンスカイの更なる推進**
- **地域における受入人材育成**
- **個人旅行客の受入環境整備**
 - ・Wi-Fi置など移動・観光施設のICT化
 - ・二次交通の整備
 - ・主要拠点での言語バリアフリー 等
- **M I C E 受入環境の更なる整備**
 - ・歴史的建造物など公的文化財施設をユニークベニューとして開放
 - ・海外からのコンベンション情報の一元窓口の整備 等
- **外航クルーズ拡大のための各種整備・規制緩和**
 - ・港湾施設、客船ターミナルの整備及びメンテナンス実施
 - ・CIQ（出入国手続き）クリアランス能力の向上
 - ・各種規制緩和（一例）①カボタージュ規制緩和（外国船による国内間輸送禁止）、
②大型船運行規制緩和（瀬戸内海夜間運行規制）、③外航クルーズ船の船舶検査手続き簡素化

訪日旅行需要の喚起

受入環境の改善

受入環境の整備に向けた取組(例) -外国人旅行者に安心して快適に日本を楽しんで頂くために-

① 多言語表示を統一的な視点で進めて行く

→ 多言語ガイドラインの策定・普及、取組の外国人目線での点検・評価

② ICT技術を活用して移動・観光のためのスムーズな情報収集等を実現する

→ 無料公衆無線LAN環境の整備の促進、観光アプリ等の開発・普及、機能向上

③ ICT技術を活用して読む・書く・聞く・話すをサポートする

→ 多言語翻訳・通訳アプリの開発・普及、機能向上

④ 円滑な決済環境を整備する

→ 海外発行クレジットカード対応のATMの設置促進、海外情報発信

→ 観光地等におけるクレジットカード等の決済インフラの普及

⑤ 公共交通機関の利便性を向上する

→ 交通系ICカードの外国人旅行者への普及促進、タクシー・レンタカー等の利用環境改善 等

⑥ ムスリム旅行者の受入環境を整備する

→ 食事や礼拝環境についての的確な情報発信の促進と海外への積極的な情報発信

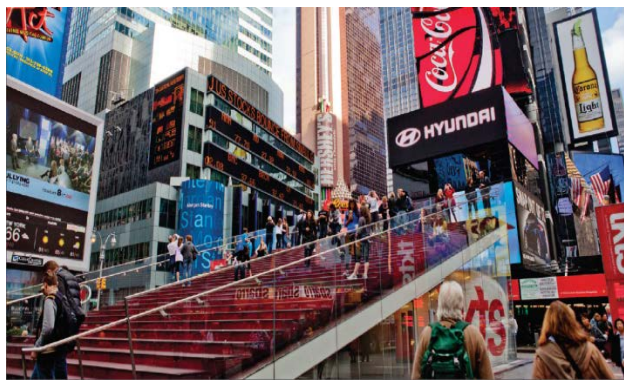
3. 観光立国実現に向けたデジタルサイネージへの期待と課題

ディストネーション（旅行目的地）の魅力最大化のために、JTBグループが目指す Destination Management Company (DMC) とは？

**地域の知恵、専門性、資源を所有し、
イベント、アクティビティ、輸送・運送計画のデザイン・提案に特化した
プロフェッショナルなサービスを提供する企業（事業体）**

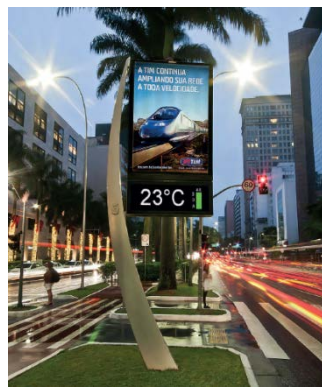


グローバル交流人口の拡大



写真：NPO Times Square District Management HPより

都市の景観美化と機能強化



写真：JC Decaux 2013 Reference Document



ディストネーションの活性化



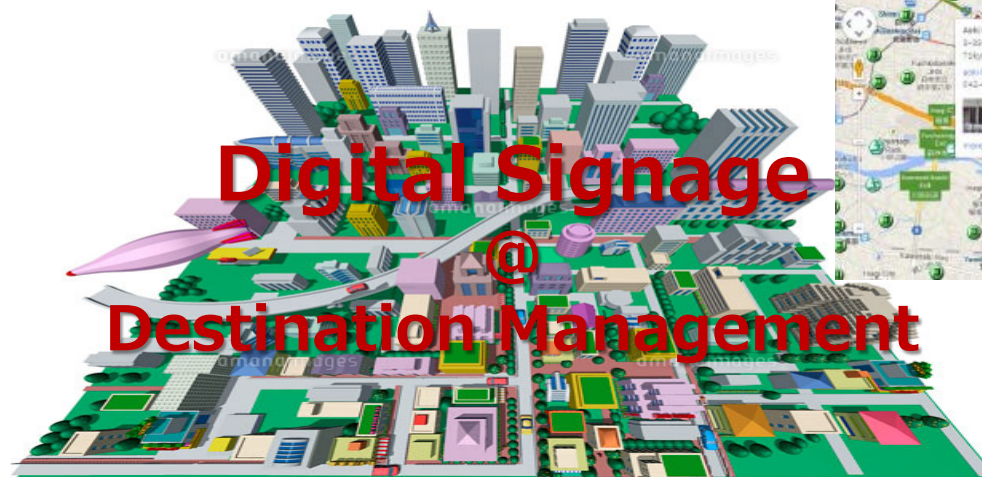
写真：NPO Bryant Park Corporation HPより

感動体験の創出

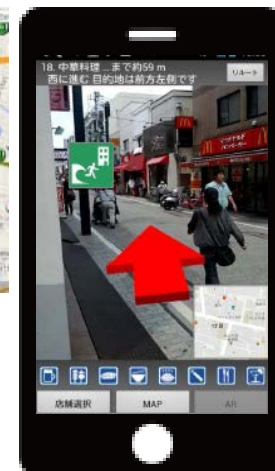


写真：NPO Times Square District Management

DMC (Destination Management Company)
感動が移動を促す「街づくり」から「国づくり」へ



安心安全な観光

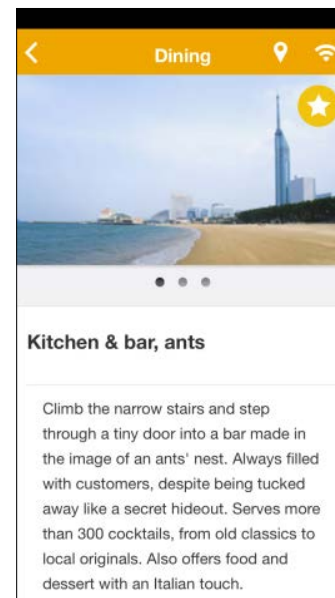


写真：国際航業資料より

ディストネーション（目的地）の価値を最大化する情報伝達装置としての期待

グローバル交流人口の拡大・最適化

参考事例：NTTとJTBグループの協業による「訪日外国人向け観光サービスによる地域活性化トライアル」



グローバル交流人口の拡大・最適化を促すためには、Wi-Fiなどの通信インフラを活用したOOHメディアとパーソナルメディアの融合が今後の課題

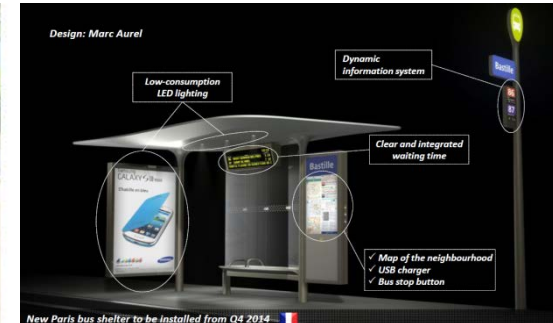


専用アプリのカメラでメニューのQRコードを撮影



都市の景観美化と機能強化

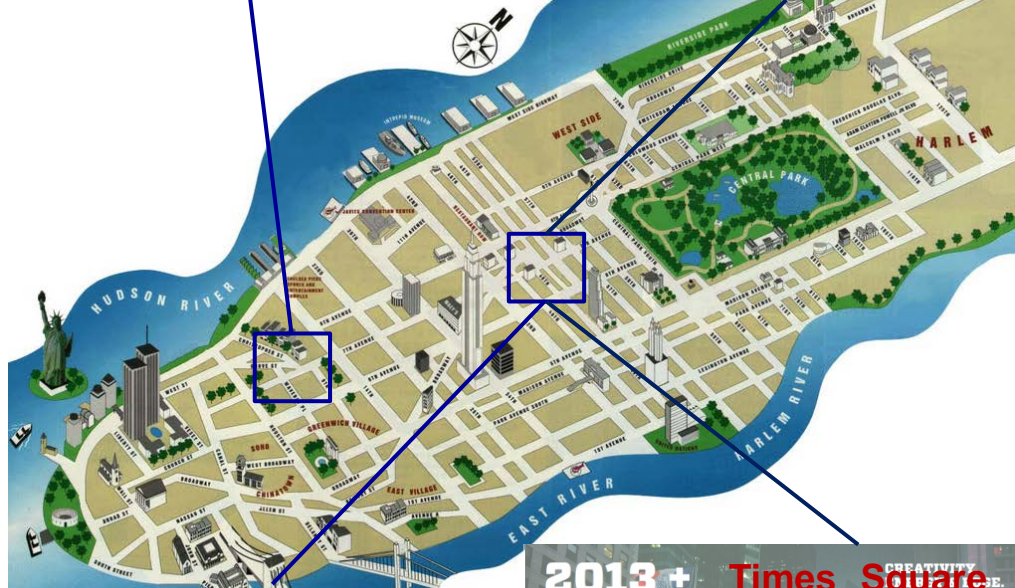
参考事例：仏・JC Decaux社によるストリートファニチャー OOHメディア ビジネス



写真：JC Decaux 2013 Reference Document

ディストネーションビジネスの活性化

参考事例：ニューヨーク州・BID制度におけるエリアマネジメント

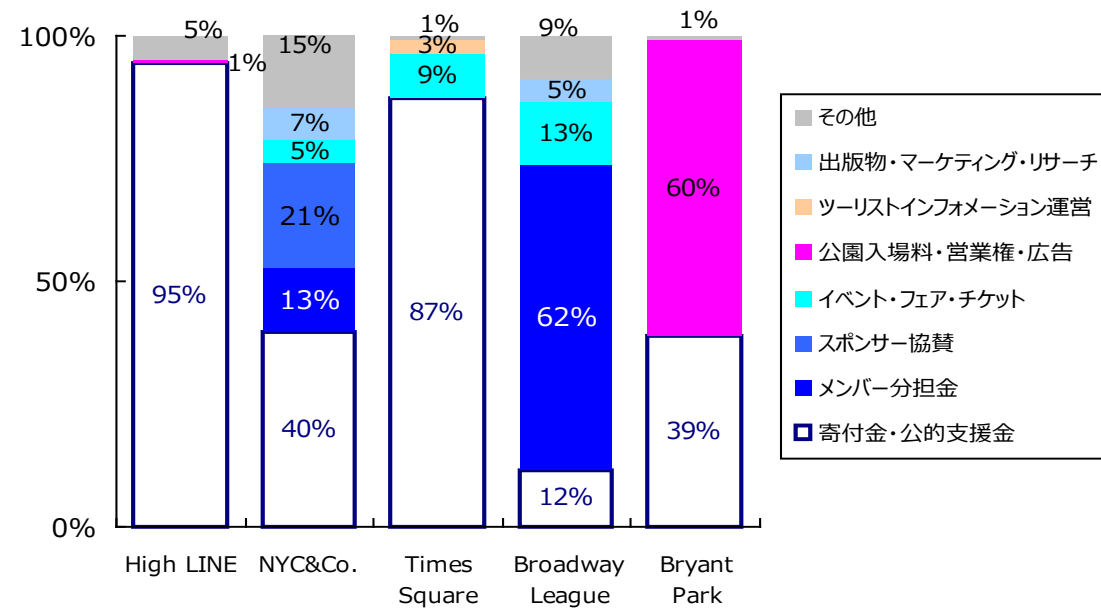


Business Improvement District (BID) 制度

主にビジネス地域において、資産所有者・事業者が、地域の発展を目指して必要な事業を行うための組織化と財源調達の仕組み
 当該地区の資産所有者の一定割合（数又は面積で規定）が合意すれば、BIDを設立又は解散できる。
 BIDは、地区内の資産所有者に強制的な負担金に課することができる。

ニューヨーク主要 BIDのNPO の収益構造

出所：Form990(各NPO法人IRS提出資料)



デジタルサイネージ（パーソナルメディア含む）は、ディストネーション（エリア）マネジメントにおける

- 広告メディア事業
- イベント・フェア事業
- 観光インフォメーションサービス
- MICE関連サービス事業

など収益事業に資するアセットとして期待される。

感動体験の創出

参考事例：エンターテイメント・ツーリズム



出典：NPO Times Square District Management



出典：NPO Bryant Park Corporation

安心安全な観光

参考事例：観光危機管理

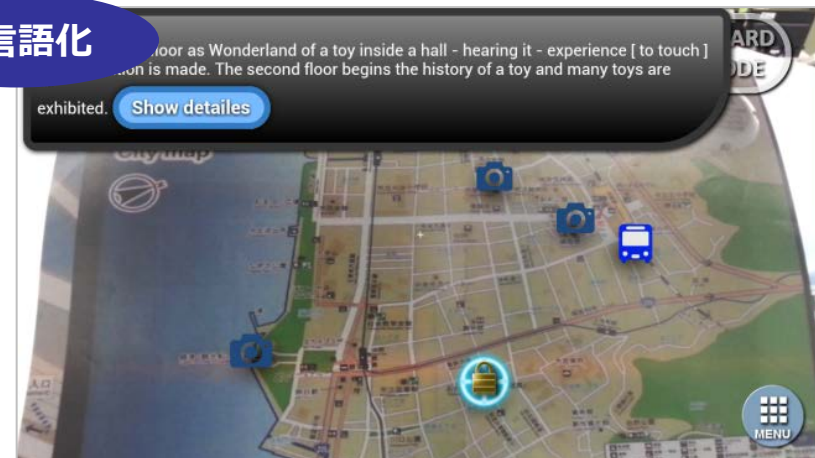
多言語化



サインに端末をかざすと、コンテンツが出現。

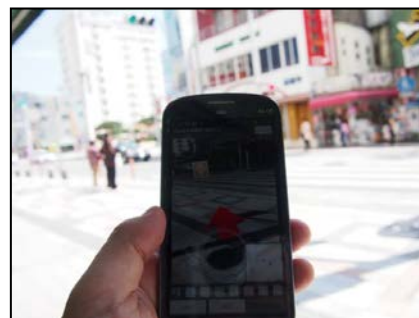
※画像認識のAR技術を使用しており、
既設のサインでも画像を登録することで対応が可能。

多言語化



観光施設や路線バスの現在地情報など
画面上のコンテンツを触ると、説明情報を表示
(webサイトやMapアプリとのリンクも可能)

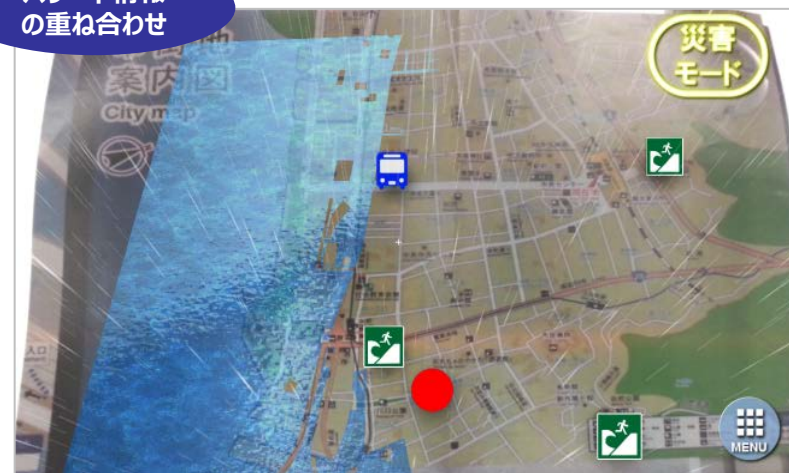
機動性



AR技術を活用した 避難路誘導サービス

※リアルタイム情報との
連動性が大きな課題として残る

ハザード情報の 重ね合わせ



地域の浸水エリアや避難場所などを表示

出典：国際航業「観光サービスにおける安心・安全メニュー」より

都市の景観維持と機能向上の両立（サイネージ計画ガイドラインなどの検討）

- 都市の観光資源である「景観」を損なうことなく、街並みにマッチしたサイネージデザイン（筐体、コンテンツとも）
- 訪日インバウンド観光客の動線をスムーズに誘導し、交流人口の拡大を促す「機能」を最適化するサイネージ計画
- 観光都市のエンターテインメント性を増幅する集客資源としての活用方
- モバイル端末などパーソナルメディアとの連動による機動性、即時性などの機能強化

多言語対応におけるコストとクオリティ（多言語化の共通プラットフォームなどの必要性）

- コンテンツの多言語化に係るコストの軽減
- 多言語化ガイドラインなど共通ルールの策定によるクオリティの担保
- ユニバーサルデザインなどの活用

発信するコンテンツの質と量（コンテンツ・ガイドラインなどの検討）

- 発信するコンテンツの流通ルールの検討（公共情報、商業情報、観光サービス情報など・・・）
- 発信する情報のクオリティチェック：審査基準などの検討
- 緊急対応時におけるリアルタイム性、機動性などの確保

公益性と収益性（サイネージ運営方の検討）

- サイネージの事業性を確保する規制などの緩和（公的空間のコンセッションなど、エリアマネジメントとの連携）
- サイネージの公益性を両立する制度などの検討（日本版BID制度などの検討）
- 公益性と事業性を兼ね備えるサイネージ運営の体制づくり

**2020年、史上最高・世界一のオリンピック・パラリンピックの実現を目指し
2020年以降、オリンピック・レガシー&レジェンドを最大活用し
「Global Destination TOKYO」を持続可能なものとするうえで
デジタルサイネージをはじめとする都市空間における情報伝達プラットフォームは
観光業においても重要な都市機能と認識いたします。**

**また、成熟化社会が本格化する我が国が持続的な成長を成し遂げるために
グローバル交流人口の拡大は、観光業にとってのミッションと認識いたします。
日本の魅力を海外の方にスマートかつ的確にお伝えし移動を促進するための
情報伝達装置としてデジタルサイネージには大きな期待を寄せております。**

ご清聴ありがとうございました。